

平成22年度全国高等学校総合体育大会【美ら島沖縄総体2010】
(第78回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成22年8月19日(第3日)

会場: プール

ゲームNo

16

帽子の色	白	準々決勝	青	帽子の色
山形県立山形工業高等学校		2 - 3	鳥取県立鳥取中央育英高等学校	
		3 - 1		
		1 - 3		
8		2 - 0	7	
		EX.		
天候: 晴れ		-		
		P.T.		
		-		
			審判1: 井上 嘉隆	
			審判2: 岡 弘樹	

戦評

ベスト4の最後の1枠を争う戦い。白:山形工は1回戦で城北、2回戦で秀明と関東勢を退け、勝ち上がってきた。シニア時代にも全国優勝を経験したメンバーが多く、個人としても、チームとしても完成度が高い。青:鳥取中央は、長浜北星から11点奪い、勝ち上がってきた。攻撃の中心はキャプテン 田村と2年生 深田、カウンター、パワープレーなど2人で9得点の活躍。両チームともにカウンターでの得点も多く、ターンオーバー時から目が離せない。

1P 山形工の先攻で始まる。山形工にいきなりチャンス、センターボールを取りに行った 羽角が、鳥取中央ディフェンスのマークチェックの穴をそのまま泳ぎ抜けドリブルイン、GKと正対するもシュートは決まらず。両チームともスタートからダッシュでの泳ぎ合い。速攻のかけ合いのなかから得点が生まれる展開。先制点は山形工、5:33、2年生 新山のカットイン、ボールをキープしながら、浮き上がりパワフルなシュートを決める。泳ぎ合いの中から退水も誘発される。5:22、鳥取中央は退水のセットオフenseに2年生 島田が角度のないサイドでGKと正対するものの、パワーでねじ込み得点。4:56、山形工 齋藤が速攻をかけ退水を誘発、そのままパスを受け得点、2 - 1で山形工リード。カウンターの出し合いは続き、2:53、鳥取中央2年生 秋月が速攻から得点し、2 - 2。残り1分を切り、山形工 近野がフロートプレーで退水を誘発、このセットオフenseは鳥取中央2年生 GK 山根がファインセーブ。そして、このボールからの速攻で抜け出した 秋月、残り時間がないことがわかると、GKの位置をよく見てハーフライン付近からループシュートを放つ、空中でブザーがなったボールはそのままゴールネットを揺らした。鳥取中央が1点リードで終了。

2P 両チーム、このドリッドも泳ぎの勢いは落ちない。6:15鳥取中央の退水オフenseでは、栗田が得点。3:10、山形工 高橋がカウンターから絶妙のループシュートを決める。3 - 4で鳥取中央がリードを守る。お互いにキープパスの一手手前でボールロストの攻防、しばらくは点が入らない状況が続く。1:58、山形工 羽角のカットインで退水を誘発、このセットオフenseでは素晴らしいフォーメーションプレーが見られた。パス回しの早さ、下がる・上がるのコンビプレーでマークを圧倒、ゴール前の 近野を完全にフリーにさせそこから得点し、同点。ここまで泳ぎ抜いた後に完璧なコンビプレーを発揮する底力を垣間見た。勢いに乗った山形工は0:54にも退水オフenseで 新山が得点。5 - 4と山形工リードで前半を折り返す。

3P 両チームの泳ぎにも少しかげりが見え始めたか。お互いに奥まで攻め込まずに、ミドルシュートの打ち合いの様相。しかし、組んでからの単調なシュートはお互いに決まらない。5:37、ハーフライン付近でパスカットした鳥取中央、そのまま 島田が速攻を決め、同点。これを機に鳥取中央が息巻く。3:32、キャプテン 田村のトリッキーなフリースローシュート、浮き上がらずに手首だけでクイックシュートで得点。さらに2:30には、セットを組む前に、秋月がディフェンスの意表をつくミドルシュートで得点。5 - 7と鳥取中央リード。0:25、山形工は退水オフenseで、新山が得点。この試合展開での1点差はまだ先が見えない。

4P 5:34、山形工の速攻、羽角がリードブレイクしたところに、近野が泳ぎ込みワンタッチシュート。同点。息づまる熱戦、激しい泳ぎ合いの中、ターンオーバー時に発生した退水オフenseのチャンスに山形工のタイムアウト。ここでのシュートはミス、そのボールに鳥取中央は速攻のチャンス、しかし山形工ディフェンスが守り抜き、逆速攻をかけると、近野のスーパープレー。カットインでゴール前に泳ぎ込みながら斜め後ろからのパスに反応し、シュートをねじ込んだ。山形工1点リード。鳥取中央の執念の攻めは手に汗握る展開へと。2:38鳥取中央 深田が相手のペナルティファールを誘発、しかし、このペナルティシュートは山形工キャプテン GK 木村がスーパーセーブ。2:00にも絶対的なピンチをスーパーセーブで回避した。0:22、鳥取中央の退水オフense、残り3秒で放たれたシュートは無情にもバーにあたりフィールドの外へ。1点差の激戦は山形工が制した。

記録者

志水 啓介